

平成27年3月9日



**【照会先】**

国立障害者リハビリテーションセンター  
研究所福祉機器開発部福祉機器開発室  
室長：硯川 潤（スズリカワ ジュン）  
（代表電話）04-2995-3100  
（内線 2522 or 7287）

報道関係者各位

国立障害者リハビリテーションセンター

**車椅子ユーザ参加でデザインした災害対策チェックキットを公開**  
－ワークショップ形式で自身に必要な備えを簡易に把握－

障害者の災害対策では、各自の障害特性や生活機能に適合したヒト・モノ・サービスの備えが重要になります。しかし、そのような備えをリスト化することは、専門知識のない個人には少し敷居の高い作業でした。

そこで、国立障害者リハビリテーションセンターでは、障害者の備えを把握することを目的としたワークショップを容易に開催するための支援キット「障害者の災害対策チェックキット～備えよう！その時のために～」を開発しました。開発の第一段階として車椅子ユーザを参加者としたワークショップで試用・改良を重ね、本キットを用いた90分程度のワークショップで自身の最低限の備えを把握できることを確認しています。今後、他の障害種別にも対象を広げていく予定です。

障害者の災害対策に特化したワークショップの支援キットを、当事者参加でデザインした例は世界でも類がありません。障害者本人の気付きを促すだけでなく、障害者施設などの災害対策担当者がワークショップの開催を通じて、個人差の大きい障害者の災害時のニーズを把握するためにも有用です。

今回、同キットの電子データをウェブ上に公開し、障害者団体、自治体や社会福祉協議会、介護福祉施設などでの幅広い活用を促進することとしました。また、3月14～18日に仙台で開催される「第3回国連防災世界会議」のパブリックフォーラムに出展し、キットのサンプルを配布致します。

1 背景：

障害者が東日本大震災のような大規模災害を生き延びるためには、自らの障害に合わせた備えを日常的に考えておくことが重要です。しかし、モノの備蓄から、ヒト・サービスの手配まで、考えるべきことは多岐に渡り、必要な対策を網羅することは専門知識の少ない個人には困難な作業でした。

そこで、国立障害者リハビリテーションセンターでは厚生労働科学研究（厚生労働科学研究費補助金（障害対策総合研究事業）、研究課題：「福祉機器の利活用と開発を促進するための社会技術基盤の創成」、研究代表者：諏訪 基（国立障害者リハビリテーションセンター研究所

顧問))の一環として、車椅子ユーザを主たる参加者とした「障害者の災害対策ワークショップ」を開催し、障害当事者が災害対策を考えるために必要なプロセスを分析すると共に、短時間で一定の気づきを得るためのワークショップキットの開発に取り組んできました。

## 2 キットの概要：

### 【構成】

開発したワークショップキット「障害者の災害対策チェックキット～備えよう！その時のために～」は、以下の5点で構成されています。

- 生活確認シート
- 災害時の備えカード一覧
- 災害時の備えカード（付箋紙シール）
- シーン別備え確認シート（シーン別3シート〈自宅編〉〈外出編〉〈避難所編〉）
- シミュレーション進行マニュアル

### 写真：

キットを用いたワークショップの様子



災害時の備えカード（付箋紙シール）



備え確認シートに貼られたカード。右側に今後備えるべきものがリスト化されている



## 【内容】

本キットの目玉は、60 余りの災害時の備えをイラスト化した付箋紙タイプのカードです。一般的な防災物品から、障害者に特化した必需品まで、多様な備えを提示することで、自身の備えに対する気付きを与える効果が期待されます。キットを使ったワークショップの進行は、専門知識を持っていなくても司会ができるようにマニュアル化されており、障害者団体の集まりや障害者施設のミーティングなどで、簡易に実施できます。具体的には、

1. 「生活確認シート」を記入し、自身の生活活動や介助者の利用度合いを把握
2. 「備えカード」から現在の備えを選択し、「備え確認シート」に張り付け
3. 「進行マニュアル」にもとづき、張り付けた備えの課題をチェック
4. 課題が見つかったカードを張りかえていき、今後の課題をリスト化

という4つのプロセスを経て、自身の現在の備えを見直し、今後の備えに反映すべき課題をリスト化することがワークショップの目的となります。

## 【期待される効果】

本キットにより、以下のような効果を期待できます。障害者本人だけでなく、ワークショップの場を支援者と共有することで、個人差の大きい災害時のニーズを的確に伝えることができるようになります。

- ・障害当事者本人が、災害対策に必要なものを簡易に確認できる
- ・障害者の支援者が、当事者の災害時の状況を把握し、支援計画に反映できる
- ・自治体や社会福祉協議会などの災害対策担当者が、障害者の災害時ニーズを把握できる

\*キットの電子データや詳細な利用方法は以下のホームページに公開されています。

[http://www.rehab.go.jp/ri/kaihatsu/suzurikawa/res\\_saigai01.html](http://www.rehab.go.jp/ri/kaihatsu/suzurikawa/res_saigai01.html)

\*また、同キットを開発したワークショップの概要は下記ホームページからご覧頂けます。

<http://www.rehab.go.jp/ri/kaihatsu/wdws/houkoku/2014/saigai/a1.html#>

## 3 第3回国連防災世界会議パブリックフォーラムへの出展：

- ・日時：3月14日(土)～18日(水) 10:00～20:00
- ・場所：せんだいメディアテーク「世界の防災展」会場  
(〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町2-1)
- ・ブース：6-003 (6階)
- ・URL：<http://www.bosai-sendai.jp/public-forum/>